

コシヒカリの健苗育成について

橋本寿子・千蔵昭二・大隈光善 (福岡県農業総合試験場筑後分場)

HASHIMOTO, H., S. CHIKURA and M. OKUMA : Raising Method of Good Seedling of Rice Variety "KOSHIHIKARI".

コシヒカリは、極早生品種で栄養生長期が短いため、苗質の良否がその後の生育に大きく影響するものと考えられる。現在、コシヒカリの育苗は他の品種と同じ育苗指針によっているが、平たん地では苗が徒長しやすく、問題となっている。そこで、6月中、下旬移植栽培での健苗育成のための育苗法を明らかにするため、出芽法や施肥法等について検討したので、その概要を報告する。

1. 試験方法

育苗条件として、箱当たり播種量を160gと180g、箱当たり施肥量(N成分)を0g, 0.5g, 1.0g, 出芽法を積重ね出芽と平床出芽とした。標準区は、播種量180g, 肥料1.0gで、積重ね出芽法とした。なお、積重ね出芽法は、3日間積重ねした後、黒色不織布で2日間被覆し緑化を行った。また平床出芽は、露地で黒色不織布を4日間被覆した。床土には肥料分のない山土と珉がらくん炭を等量混ぜて用い、播種期は6月3日とした。播種19日後に苗の調査を行い、苗の活力の指標として発根力を調査した。一部の苗については、本田へ移植しその後の生育・収量調査を行った。

2. 結果および考察

1) 移動時苗の生育 本年の育苗期間の気象は、平均気温、日照時間、降水量とも、平年並であった。

平床出芽は積重ね出芽に比べて、苗長がやや短く、苗令は0.5葉程度進んだ。また、施肥量1.0gでは徒長苗となり、0~0.5gで最適苗長の苗がえられ、苗質も良好であった。

2) 苗の発根力 平床出芽で施肥量0~0.5g区は、発根量、発根率とも標準区よりまさった。また、出芽法と施肥量が同じ場合には、播種量は180gより160gの方が、発根力はまさった。すなわち発根力は、播種量160g・無肥料で平床出芽の苗が最も良かった。

3) 本田での生育 標準区と、発根力に差があるNo3, No5を本田に移植した結果、播種量160g, 無肥料・平床出芽の苗は標準区に比べ、本田移植20日後の茎数および乾物重がまさり、移植後の活着が良好であった。また、稈長が3cm程度短く、倒伏程度もやや小さかった。千粒重は大きく収量はまさった。

4) まとめ 5月下旬~6月上旬播種の普通期栽培におけるコシヒカリの健苗育苗法としては、従来の稚苗育苗法より播種量および施肥量を減じる必要がある。この場合の播種量は160g/箱, 施肥量(N成分)0~0.5g/箱とし、平床出芽を行う。

第1表 移植時苗の生育 (1983年)

No	試 験 区		苗 長 苗 令 枯死葉数 乾物重				乾物重 苗 長
			(cm)	(L)	(枚)	(mg/本)	
180 g 播種	平床	・0 g	11.2	2.9	0.2	13.0	1.16
		・0.5	13.1	2.9	0.5	15.9	1.21
	積重ね	・1.0	16.8	3.0	1.0	16.6	0.99
		・1.0	17.9	2.5	0.8	18.2	1.02
160 g 播種	平床	・0	10.4	2.8	0.1	12.7	1.22
	積重ね	・1.0	17.4	2.5	0.6	18.5	1.06

第2表 苗の発根力 (1983)

No	試 験 区		発 根 量	発 根 率
1	180 g 播種	平床・0 g	20.6	10.0
2		平床・0.5	25.4	13.0
3		平床・1.0	6.3	8.6
標4		積重ね・1.0	18.9	8.3
5	160 g	平床・0	36.4	17.3
6		積重ね・1.0	19.3	9.8

発根量 = 根長 × 根数 発根率 = 発根重 / 地上部重

第3表 本田での生育および収量 (1983)

No	試 験 区		移 植 20 日 後				成 熟 期			
			草 丈	茎 数	乾物重	葉 令	稈 長	千粒重	精玄米重	倒伏程度
			(cm)	(本/株)	(g/10株)	(L)	(cm)	(g)	(kg/a)	
3	180 g 播種	平床・1.0 g	32	7.9	8.2	6.9	86	21.3	37.9	多
標4		積重ね・1.0 g	32	9.5	9.8	6.8	87	21.7	43.1	多
5	160 g	平床・0 g	31	11.4	10.7	7.2	83	22.2	44.3	中